



Viet Nam

是沢 哲生

埼玉県狭山市立堀兼中学校

ベトナムの現状と理解を通して、これからの援助のあり方を考える～青年海外協力隊の活躍から世界を考える～

- 担当教科：理科
- 実践教科：総合的な学習の時間、道徳
- 時間数：6時間
- 対象生徒：中学3年生
- 対象人数：32人

〔1〕授業実践のテーマ・目的

援助と言えば、まず「募金しよう」・「物を送ってあげよう」という上から目線の発想がすぐに生徒からは出てきます。しかし近年、国際開発の現場は急速に変化しているようです。すなわち、従来の「慈善型」の援助や「技術移転型」の開発だけでなく、住民参加を基本とした「参加型開発」が目指されています。しかしながら、実際には、慈善的な援助観をもとにした募金活動や啓発・教育活動が盛んに行われていると思います。そのため、発展途上国の現状を理解した上で、「援助のあり方はどういうものかのぞましいのかを考えること」をテーマとして設定した。

授業実践では、次の二つを目的として掲げた。

- ①様々な方面でベトナムの自助努力を支援するために活動している JICA 職員や青年海外協力隊、地元 NGO のスタッフの生き方に共感する。

今回の研修で、ベトナムの人々がより良い生活をしていくために、多くの日本人（JICA 職員、青年海外協力隊、NGO スタッフ、日系企業社員）の方々が、現地の人々と共に働き、活動をしている姿を目の当たりにした。教育、交通、保健衛生（水道）、農林水産等、各分野の方々からどのような支援を行っているのかを実際に見たり、話を聞くなかで、その「行動力」や「生き方」から学ぶものが多かった。この活動や生き方に共感させたい。

- ②その国の経済的な自立を支援するためには、どのような援助かのぞましいのかを考えることができる。

「援助」そして「国際協力」について、「援助する側」と「援助される側」の気持ちを考え、その国の経済的自立を支援するため、援助をどのようにとらえ、行動していくことができるのかを考えさせたい。その国のお国柄や実情を尊重した援助が必要であることや、「援助される側」の意向を組んだ上で、私たちに何かできるかを考え、「共に生きる」という意識を育てていきたい。

〔2〕授業の構成

<教科名：総合学習、道徳>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時間目 ②ベトナムを知ろう ③生徒の持っている漠然としたイメージのベトナムと実際の比較をしてベトナムの現状を知る	1. ベトナムの位置とイメージの確認 2. ベトナムのイメージと実際のベトナムの違いを比較する 3. ベトナムの写真から読み取れることを発表する（最初はあえて発展しているベトナムの写真を見せた）	・東南アジアの地図 ・現地の通貨 ・民族雑貨 ・ベトナム研修で撮影した写真（資料1）
<児童・生徒の反応>	・事前アンケートでは、ベトナムの位置・首都・政治体制等わからない者が多かった。 ・ベトナム戦争、ベトちゃん・ドクちゃん、枯れ葉剤というような戦争の爪痕が残されているイメージが強かった。 <生徒の感想> ・高層ビルが建ち、日本の風景と変わらない。	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えの風景も、機械を使わないで行っているが日本と変わらない。 ・バイクが多く走っている。 ・信号がない。交通ルールが守られていない。 ・交通事故が多く起こりそう。 ・病院が患者であふれている。 ・民族衣装がきれいである。 	
①2時間目 ②日本と東南アジア 日本からの協力の仕方 ③日本と東南アジアはこれから どんな関係を築いていけばよ いか	1. 開発途上国の人達にあなたはどんな援助が 出来ますか 2. 日本からの援助にはどんな物があるかを考える 3. 100円ショップの製品はどこで作られてい つか。なぜだろうか 4. 日本からの援助に何を期待しているのだろうか 5. JICA がベトナムで行っている援助の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムでの技術・無償・有 償経費実績表(資料3) ・ベトナムにおける JICA 実施 中案件図(資料4) ・写真
<児童・生徒の反応>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なら援助として、募金・救援物資を送る・ボランティアをするという者が多い。 ・病院建設、道路建設、空港・港湾整備等ものを作る援助を考えている生徒が多い。 ・お金や病院・機械類の援助、日系企業の進出に期待していることがわかった。 ・交通安全、水道事業、リハビリ技術、観光学校での職種別技術、サービスとは 等についてベトナムの様子を物珍しく聞き入っていた。 ・ものの援助も必要だけど、技術を教える援助も必要だと感じてくれた。 	
①3時間目 ②開発途上国への援助 ③ものやお金を寄付するという 「援助」の意味を考えてみる	1. 自分だったら未開地の学校へ寄付をするか、い くらするかを考える 2. 看板を立てて観光客に寄付を呼びかける行動 についてどう考えるか討論する 3. この行動についてより良くするための工夫を考 える 4. ベトナムの水上生活者の様子から援助を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・状況カード ・説明文 ・ワークシート
<児童・生徒の反応>	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の生徒が、募金をするという行為について賛成であった。 ・看板を立てて呼びかけるという行為にも行動力があると賛成者が多くいた。 ・一方、この寄付が継続して行えるかどうかという不安意見もあった。 ・より良くするための工夫に関しての意見が出なかった。 	
①4時間目 ②現地での調査 ③援助をする側とされる側の認 識の違いに気づく	1. 村で調査すべき項目について話し合う 2. ロールプレイを行う 3. さまざまな立場の人の意見を聞き、現地で情 報収集する際の課題について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
<児童・生徒の反応>	<ul style="list-style-type: none"> ・村の人の意見をきちんと聞くべきだ。 ・学校だけが未整備なのではなく、道路・電気も村にとっては必要である。 ・いろいろな立場の人がたくさんの意見を言うので、何が重要であるかなかなかわ からない。 ・援助する側は、自分の国での体験や、自分の育った環境との比較で、物がない ことやお金がないことがこの国の問題点だと判断しがちであるが、実際には現地 の人々の意見を聞かないといけないことがわかってきたようだ。 ・情報収集を行うときの課題について考えることが難しかった。 	
①5時間目 ②私達に出来ること・出来ないこ と ③自分達に出来ることは何か。し てはいけない援助とは何かを 考える	1. 私達に出来る援助についてランキングをする 2. グループ内での発表 3. 自分たちで「してみたい援助」、「してはいけ ない援助」について考えを書く	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(資料2)
<児童・生徒の反応>	<ul style="list-style-type: none"> ・どれも大事なことのように思われ、ランキングが作れない生徒もいた。 ・寄付による支援だけではなく、相手のことをよく知ること、交流を続けることの 大切さに目を向け始めたように感じる。 ・自分勝手な思いこみでの援助はやめるべきだと考える生徒も出てきた。 ・援助は持続可能なものでなくてはならないと考え始める生徒もいた。 	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①6時間目 ② JICA って何 青年海外協力隊って何 ③ JICA や青年海外協力隊の活動について知り、今後日本が行うべき援助はどうあるべきかを考える	1. 実際に青年海外協力隊の人々が行っている活動のVTRを視聴する 2. 活動の理念について考える 3. 日本が行うべき援助の方向について考える	・動画「そして世界は広がった」青年海外協力隊活動紹介動画 ・VTR NHKビデオ「青年海外協力隊の若者たち」
<児童・生徒の反応>	・言葉の通じない発展途上国に一人で乗り込んでいって、現地の人と一体になり技術を教えているのはすごい。 ・日本がこんなに発展途上国に貢献しているとは思わなかった。 ・今まで募金をすればよいと思っていたが、自分がその土地に行き、教えることの大切さがわかった。 ・日本は先進国として技術を持っている。これを日本だけのものとしなくて相手のためになることをどんどん教えたらよい。	

〔3〕 詳細説明

3時間目

1. **主題** ものやお金を寄付するという援助の意味を考えてみる
2. **資料名** 1枚の看板
3. **主題設定の理由** 援助というと一般的にすぐ思いつきやすい募金ということの意味について考えさせたい
4. **本時の学習**
 - (1) 班ごとに状況カードを配布し「一枚の看板」を読み上げる。
 - (2) ワークシート 1. <あなたは10ドル寄付しますか>について各自の考えを書く。
 - (3) 班内で自分の考えを発表する。
 - (4) 資料1<バーン村について> 資料2<バーン小学校について>を読む。
 - (5) ワークシート 2. <あなたはアイ子の活動について賛成しますか。理由は何ですか>について各自の考えを書く。
 - (6) 班内で自分の考えを発表する。
 - (7) ワークシート 3. <アイ子の活動に対するアドバイス>を行う。
 - (8) ベトナムの水上生活者の話をする。この人達には何の援助が必要かを話し合う。(写真1・2・3)

状況カード1 「一枚の」看板



状況カード2 「トレッキングと看板」

・あなたはチェンマイ周辺の自然と伝統文化を体験する2泊3日のトレッキングに参加しました。
 ・ようやくついたバーン村は、山岳少数民族の村で、電気が通っていない山の中の村です。
 ・村の人達が作ってくれた夕食を食べているときに、あるメンバーが、「さっき通り過ぎた学校の横に看板があった。この村の学校はお金がなくて困っています。あなたの10ドルを寄付してください。名前のアイ子は日本人じゃないか」と言ひだし、あなたのグループは興味を持った。

資料1 <バーン村について>

- ・人口は352人。42家族が暮らしている。
- ・言葉は山岳少数民族のことば。村の一部の人がタイ語を話す。また子どももある程度タイ語を理解する。
- ・村の主な産業は農業。焼畑をしている。米と野菜をつくる。豚、鶏、犬を飼っている。現金収入は、余った野菜や家畜を約30キロ離れた市場まで売りにいく。村にはトラックが2台とバイクが5台ある。道は舗装されていないので雨季には通行ができないこともある。トレッキング客からの宿泊料も貴重な現金収入である。1泊2食で150バーツ（約450円）。
- ・若者のなかにはチェンマイへ出稼ぎに行くものもいるが、なかなか仕事は見つからない。
- ・電気はきていないが、水は簡易水道で供給されている。煮炊きには薪を使う。
- ・タイ政府からは年間8万バーツ（約24万円）の予算が下りてくる。このなかには小学校の費用も含まれる。
- ・政府には道の舗装と電気の供給を要望している。
- ・宗教は伝統的な自然崇拜。村には寺があるが住職はおらず、行事のときだけお坊さんがふもとの町からやってくる。
- ・村には病院はなく、医師もいない。診療所は約30キロ離れたふもとの町。ただ、薬草の詳しい知識をもつ村人がいて、簡単な薬を作ることができる。

資料2 <バーン小学校について>

- ・この村には小学校はひとつだけ。6学年で、生徒は47人。皆この村の子どもたちである。
- ・先生は3人。ただし、タイ人はひとり。あとの2人は村のボランティア教師。タイ人の先生も若い女性で、着任して今年で2年目。全教科全学年を担当している。ボランティアの村の教師は、芸術やスポーツや村の知識や伝統を教えている。
- ・教科書はタイ政府が指定したものを使用。タイ人の1人の教師の給料は政府から出ている。
- ・村で通常使われている言語は山岳少数民族の言葉であるが、学校ではタイ語が教えられている。
- ・この村には中学・高校はないために、進学を希望する者は村から30キロ離れた町で下宿しなくてはならない。現在3人の子どもが下宿して中学校に通っている。
- ・教材や教具は常に不足している。この小学校が使うことができる教材・教具の予算は年間5000バーツ（約15,000円）。

ワークシート

1. あなたはバーン村の小学校に10ドルを寄付しますか。
2. あなたはアイ子の活動について賛成ですか反対ですか。それはどのような理由でしょうか。
3. アイ子の活動がより良いものになるためには、どうしたらよいでしょうか。

写真1～3



水上生活者



シクロ運転手



街中で働く清掃作業員

5. 授業を終えて

- ・やはり寄付をすること、寄付を呼びかけることに対して、賛同する者が多くいた。
- ・またアイ子の建てた看板を勇気ある行動ととらえて、賛成する者が多かった。
- ・しかし、ベトナムの水上生活者の生活の様子を見せることによって、ちゃんとした職業に就くこと、その就業のための援助が必要なのではと考え始めた。

〔4〕 成果と課題

今回のベトナム研修への事前研修をとおして「開発教育」という新たな分野を知り、実践をすすめてきた。開発教育は1つの限られた分野ではなく、総合学習、道徳、学活等、学校現場のあらゆる場面で実践していくことが大きな力になると実感している。また、開発教育はより具体的な場面を設定して自分はどうか考えるかを発表し、他の人はどうか考えているかを知ることのできる教材で、生徒同志の相互理解にも役立った。

総合学習では、架空のお話より、実際のベトナムでの体験を話したり、撮影した写真を見せたり、現場の様子を熱気を持って話せたことは教師としてもやりがいのある授業だった。また、「青年海外協力隊活動紹介」のビデオ視聴や、ベトナムで撮った写真をもとにフォトランゲージをするなど「知る」活動をするうえで、視聴覚教材を利用したことは、生徒たちが理解をするうえで大きな助けとなった。

道徳では、3年生の進路実現の時期と重なっていたこともあり、様々な人生観や生き方について考える時間になった。青年海外協力隊の人のように自分の理想に向けて、葛藤しながらも前向きに生きている人々の姿から学んだことで生徒たち自身も自分の生き方について考える機会となった。

中学生は社会に出て働くことにまだピンと来ていない。高賃金やきれいな仕事に目を向けがちな年齢であるが、青年海外協力隊の人々の活動は、中学生の心にも勇気をわきたたせ、自分にも出来るのではないかという希望を、植え付けることが出来たと感じる。

また、「援助」とは、ただお金・施設・機械・物資だけを援助するのではなく、本当に必要なものは何かを考えることが大切だと思う。医療で言えば、ただ病院を建て、派遣された医師のみが対応するのではなく、医療を教え、ベトナム人医師を育てる、そのベトナム人医師が他の医師に広める等、自立の為の支援をすることこそが大切なのではないかと思った。そのような意見が生徒から出始めたことは大きな収穫である。

今後の課題として、授業をして「援助される側」の気持ちを組み取っていくことの難しさ、それに気づくことの難しさを感じることが出来た。今回行ってきた「援助」「国際協力」とは何かという取り組みを、今後も継続していくことと、「参加型学習」についての学習方法をさらに学び、現場での実践につないでいきたいと考えている。

開発教育は、「共に生きることのできる、公正な地球社会の実現をめざす」教育である。地球規模の諸問題や現状を知り、構造的要因を考え、自分たちはどのように行動していくべきかを追求していける実践を生徒たちと共にしていきたい。また、「開発教育は、私たちひとりひとりの実践から始まる」という言葉も常に心に留めておきたい。

〔5〕 参考文献（引用文献・参考資料）

- ・平成20年度教師海外研修(埼玉県・千葉県・山梨県)配付資料「JICA事業の概要」 JICA ベトナム事務所、2008年7月
- ・ワークシート「国際協力を考える」（開発教育協会発行 「援助」をする前に考えよう。）
- ・VTR NHKビデオ「青年海外協力隊の若者たち」（教育出版）
- ・動画 「そして世界は広がった」青年海外協力隊活動紹介動画 JICA 地球広場ホームページより
- ・JICA ホームページ「ベトナム事務所」 < <http://www.jica.go.jp/vietnam/index.html> >

〔6〕使用教材（授業で使ったワークシートなど）

ベトナム紹介画像（資料1）



病院の様子2



農村風景



日本大使館とハノイの街並み



中央郵便局



交通事情1



交通事情2



識字学校で学ぶ子供



ベトナムの女性



病院の様子1



民族衣装1



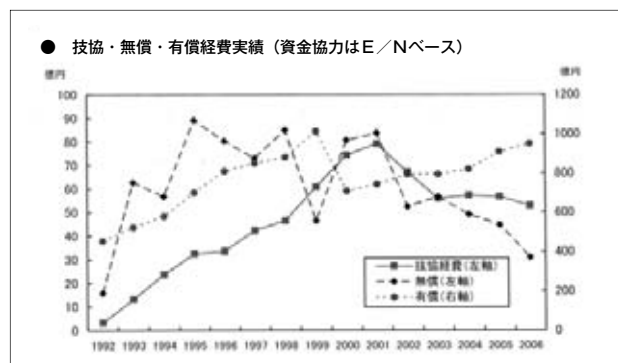
民族衣装2

ワークシート（資料2）

アイ子さんたちのグループがバーン村にできることは何でしょうか。
もっとも重要と思われる順にダイヤモンド型に順位をつけてください。

- A バーン村を支援している現地のNGOの活動にお金を寄付する
- B バーン村や北タイのNGOのことにしてもっと学ぶ
- C バーン村の学校に寄付を続ける
- D バーン村や北タイのNGO活動について、日本の周囲の人々に伝える
- E バーン村にしばしば訪問して交流を深める
- F バーンの村人のニーズを把握するための調査を行う
- G バーン村の人びとを日本に招き、講演会を開いたり、日本の村を視察する
- H 特に何もしない方がよい
- I (あなたが考えるその他の項目)

ベトナムにおける有償・無償援助（資料3）



平成20年度教師海外研修（埼玉県・千葉県・山梨県）配付資料「JICA事業の概要」より抜粋

ベトナムにおける JICA 実施案件（一部）（資料4）

教育

- ・高等教育支援事業（ITセクター）
- ・ハノイ工科大学 ITSS 教育能力強化
- ・ホーチミン工科大学地域連携機能強化プロジェクト

保健医療

- ・中部地域医療サービス向上プロジェクト
- ・ホアビン省保健医療サービス強化プロジェクト
- ・国立衛生疫学研究所能力強化計画プロジェクト
- ・地方病院医療開発事業

水資源・防災

- ・南部沿岸地域地下水開発計画

ガバナンス

- ・法・司法制度改革支援プロジェクト

運輸交通

- ・ハイヴァントンネル建設事業
- ・タンソンニャット国際空港ターミナル建設事業
- ・国道5号線改良事業
- ・紅河橋建設事業
- ・ハイフォン港リハビリ事業
- ・ベトナム北部国道交通安全強化事業
- ・港湾管理制度改革プロジェクト
- ・ハノイ交通安全人材育成プロジェクト

情報通信技術

- ・地方部インターネット利用拡充事業

資源・エネルギー

- ・フーミー火力発電所建設事業
- ・ファーライ火力発電所建設事業
- ・電力技術トレーニングセンタープロジェクト

農業開発／農村開発

- ・農民組織機能強化計画
- ・ファンリー・ファンティエット灌漑事業

JICA ホームページ「ベトナム事務所」より一部抜粋
< <http://www.jica.go.jp/vietnam/index.html> >